

平成 28 年度国産花きイノベーション推進事業 実施事例

・いばらきの花振興協議会（茨城県）

・協議会構成団体

茨城県農林水産部、茨城県花き園芸協会、全国農業協同組合茨城県本部
(公社) 茨城県農林振興公社、花キューピット協同組合茨城支部
(公社) 日本フラワーデザイナー協会茨城県支部、茨城県花き卸売市場協会
茨城花き流通センター農業協同組合、茨城県つくば芝振興協議会
茨城県フラワーパーク、大好きいばらき県民会議、茨城県農業会議

・主な取組

（1）いばらき花フェスタの開催

①取組内容

県産花きのPRを図るため「いばらき花フェスタ」を開催し、いばらきフラワーセレクション、大型フラワーディスプレイ、ハンギングバスケット・コンテナガーデン展示等の花文化展示や親子花育体験教室（フラワーアレンジメント制作）等を実施した。

平成 28 年 11 月 5 日～6 日 来場者約 7 万人

②取組による成果、参加者の反応

「茨城をたべよう収穫祭」との同時開催により、幅広い世代の方々に対し、県内で生産されている多様な花きを紹介することが出来た。アンケートで「このイベントで茨城県が花の産地だと知った」と約 4 割が回答した。

③今後の課題、取組の予定

県産花きのPRを図るため、平成 29 年度も引き続き開催する予定。



大型フラワーディスプレイ



フラワーセレクション



フラワーアレンジメント



花壇づくり

（2）幼稚園・小学校等での花育体験教室の開催

①取組内容

園児や児童が花きに親しむ機会を提供することを目的に平成28年7月から平成29年2月まで県内の保育園、幼稚園、小学校などで計54回の花育体験教室を開催し、1,140名の子供たちがフラワーアレンジメント、花壇づくり、寄せ植え、生け花などに取り組んだ。

②取組による成果、参加者の反応

子供たちが真剣に作業に取り組んでおり、アンケートでも「楽しかった」、「花に興味をもった」などの意見が多くかった。

③今後の課題、取組の予定

幼稚園などから継続の要望があるため、平成 29 年度も引き続き 40 回程度開催する予定。

平成 28 年度国産花きイノベーション推進事業 実施事例

・栃木県花き振興協議会（栃木県）

・協議会構成団体

一般社団法人とちぎ農産物マーケティング協会及び花き部会、全国農業協同組合
栃木県本部園芸部、株式会社宇都宮花き、栃木県生花商協同組合、公益財団法人栃
木県農業振興公社・とちぎ花センター、栃木県農政部生産振興課

・主な取組

（1）福祉施設における花育体験の実施 【プランター花壇つくり体験】

①取組内容

- ・目的：花や土に触れることが少ない福祉施設の方々に花に親しんでもらう。
- ・実施時期：平成 28 年 6 月 30 日
- ・対象者：社会福祉法人入所者 48 名、職員 15 名

②取組による成果、参加者の反応

普段の生活で、植物を育てる体験の少ない福祉施設で実施し、全員笑顔で楽しん
でもらい、アンケートによると「うれしい気持ちになった」という意見が多数見ら
れる等花の効用を認識していただけた。

③今後の取組予定

他の福祉施設にも取組を広げて、花の効用を一層認識していただく予定。



（2）秀品花き展示の実施 【秀品花き飾花展示】

①取組内容

- ・多くの県民が集まる「とちぎ”食と農”ふれあいフェア 2016」の中で、農林水産大
臣賞や知事賞を受賞している優秀な生産者の切り花・鉢花・洋蘭を使用して飾花
し、花きの素晴らしさを多くの県民にアピールする。

②取組による成果、参加者の反応

・約 10 万人の来場者の多くの方が飾花展示を熱心に観察しており、栃木県産花き
の品質の良さを多くの県民に PR できた。また、オリエンタルユリやシクラメン
等会場に漂う花の香りも女性客に好評であった。

③今後の取組予定

多くの県民が集まる他のイベントでも県産花き品質の良さを PR 予定。



平成 28 年度国産花きイノベーション推進事業 実施事例

・群馬県花き振興協議会（群馬県）

・協議会構成団体

群馬県、群馬県園芸協会、全国農業協同組合連合会群馬県本部

群馬県生花商業協同組合、群馬県中央園芸株式会社

・主な取組

（1）学校・福祉施設等での花育体験推進

①取組内容

児童に対して花きに親しむ機会を提供することを目的として、平成 28 年 10 月から平成 29 年 1 月の間、富岡市及び安中市内の小学校 23 校で花育教室を開催し、合計 1,486 名の児童が寄せ植えを作成した。

②取組による成果

花の名前やどんな花材が群馬県で生産されているかなど、県産花きへの関心が高まった。また、やさしさや思いやりの気持ち、生命を尊ぶ気持ちなどを醸成することができた。

③今後の取組予定

「花育」の定着を図るため、引き続き他市町村でも花育教室を開催する。

なお、平成 29 年度は、吉岡町の小学校を対象に開催する予定である。



教室の様子

（2）フラワーデザインコンテスト

①取組内容

県民に広く花の魅力を知ってもらい、花きの需要拡大に繋げることを目的として開催。フローリストによるフラワーアレンジメント競技会や「祭～花の鼓動」をテーマにしたフラワーアレンジメント作品の展示を行った。



アレンジメント競技会の様子

②取組による成果

花本来の持つ美しさや、アレンジメントを加えることにより変化する美しさに来場者の関心が高まり、PR効果が図れた。

③今後の取組予定

29 年度も継続して事業を実施し、来場者に対して花の魅力を伝えていくとともに、消費拡大に繋がる企画を検討していきたい。

平成 28 年度国産花きイノベーション推進事業 実施事例

・さいたまの花普及促進協議会（埼玉県）

・協議会構成団体

埼玉県、埼玉県花き園芸組合連合会、埼玉県花き園芸市場協会、
埼玉県生花商組合連合会、(公社)日本フラワーデザイナー協会埼玉県支部、
埼玉県インドアグリーン協会、全国農業協同組合連合会埼玉県本部、
埼玉県植木生産組合連合会、(一社)日本ハンギングバスケット協会埼玉支部、
埼玉県いけばな連合会

・主な取組

(1) 花文化展示会の開催

①取組内容

埼玉県産の花・植木、フラワーデザイン、ハンギングバスケット、いけばな、インドアグリーンなどの室内装飾などの展示に加え、著名人（志保美悦子氏等）を招いての講演会などを含めた花文化展示会を3回開催し、約22,600人の県民に対して暮らしの中で花と緑を楽しむ文化を提案するとともに、埼玉県内の花植木産業を発信した。

②取組による成果、参加者の反応

埼玉県内で生産されている花植木を多くの来場者に知ってもらうことができ、展示や講演会の参加者に花を飾る意識を喚起する事が出来た。

なお、来場者の86%が埼玉県産の花きを飾ろうと思ったと回答するなどし、県産花きへの理解を深める事が出来た。

③今後の課題、取組の予定

平成29年度は3回の花文化展示会を開催し、多くの県民に花と緑のある暮らしを提案する予定。



講演会（志保美悦子氏）



雛祭をイメージした装飾展示

平成 28 年度国産花きイノベーション推進事業 実施事例

(2) 花育体験・福祉園芸体験の実施

①取組内容

様々な知識や体験を吸収する成長期に子供たちが花や緑にふれあい、親しみ、楽しんでもらい、暮らしの中に花を取り入れてもらうために花育の体験を実施した。

また、園芸がもたらす癒しの効果によるストレス改善や植物に触れ作業を行うことによるリハビリ効果を体験してもらうための福祉園芸の体験も実施した。

②取組による成果、参加者の反応

花育体験を 112 回、福祉園芸体験を 15 回実施し、児童生徒 4,348 人、福祉施設利用者 410 人が参加した。

花や緑に触ることで、花と緑に興味が出た・少し興味が出たと感じた体験者は花育では 93 %、福祉園芸では、99 % であった。

③今後の課題、取り組みの予定

花育では、機関や地域によって花育に関する興味の度合いに差があるため、カリキュラム調整や花育の場を作る機会の創出などへの協力体制の違いがあった。より多くの学校で花育を進めるには、機関・地域での気運の醸成が必要である。

福祉園芸では、施設利用者の認知症などの程度が一律ではなく、個人差が大きいため、作業内容を認知できない利用者が体験者に含まれることから、内容は複雑なものを避けることや、マンツーマンでの対応、講師による利用者の特徴把握等が必要である。

平成 29 年度は、花育体験 4,050 人、福祉園芸体験 400 人を実施する予定である。



花育体験（いけばな）



福祉園芸体験（寄せ植え）

平成 28 年度国産花きイノベーション推進事業 実施事例

・千葉県花き振興協議会（千葉県）

・協議会構成団体

千葉県花き園芸組合連合会、千葉県植木生産組合連合会、（公社）千葉県園芸協会、全農千葉県本部、（株）第一花き柏支社、（一社）日本生花通信配達協会千葉県支部、千葉県茶華道協会、千葉県

・主な取組

（1）学校・福祉施設等での花育体験推進

①取組内容

本県では、県産花きを活用し、子どもがフラワーアレンジメントや生け花、花壇づくりを体験し、花きに触れる機会を通じて「ちばの花」に対する興味や理解を深めてもらい、花のある暮らしの定着と「豊かな心」を育むことを目的に学校教育における花育体験を開催した。

参加募集は、主に県教育庁から各市町村教育委員会を通じて行っている。

- ・実施時期：平成 28 年 6 月～平成 29 年 1 月
- ・実施校数：保育園等 4 園（170 名）、小中学校 59 校（3,343 名）、高校 10 校（165 名）、計 73 校・園（3,678 名）



「一花一葉」授業の様子

②取組による成果、参加者の反応

参加した児童の 90% は、楽しかった、また体験したいと感じ、千葉県の花の生産について知ることができた、という声が聞かれた。また、先生からは、子ども達の集中力に驚いた、自分で作ったアレンジメントを自分の大切な作品として認識し、丁寧に管理しているところに感動した、などの感想があり、ほぼ全員が花育を引き続き実施したいという声が聞かれた。

③今後の課題、取組の予定

平成 29 年度は、約 70 校の学校・保育園等でフラワーアレンジメントや生け花、花壇づくりを実施する予定。



高校生フラワーアレンジメントの様子



プランターに花苗を植えている様子

平成 28 年度国産花きイノベーション推進事業 実施事例

・ 東京都花き振興協議会（東京都）

・ 協議会構成団体

東京都、東京都花卉園芸組合連合会、東京都生花商連合組合、（一社）日本花き卸売市場協会、花き部仲卸組合、花き事業協同組合、（一社）日本生花通信配達協会、（公社）日本フラワーデザイナー協会

・ 主な取組

（1）学校等における花育の実施

① 取組内容

国内における一大消費地である東京都内において花きの普及を進めるべく、知識や体験の吸収が盛んな幼児・児童に向けた花育を広く行った。実施先との事前打合せを行い、実施先の特徴に合わせたカリキュラムを紹介し実施の効果をより実感してもらえるよう配慮した。



実施風景

② 取組による成果

オリジナルの副読本制作と、実施児童への配布により、生産者から消費者への花き流通の流れや、季節毎に生産される花の知識も伝える事が出来た。また、副読本に沿って指導を行うことで、講師による指導格差が生じにくい仕組みを持つ事ができた。結果、都内全域の花き小売店が積極的に働きかける事ができ、実施数は336講座、実施人数は延べ10,102名となった。花育体験により、花きの魅力や素晴らしいへの気づきのみならず、通常時に比べ集中して取り組んでいるなどの効果を感じた実施先も多く、花育の効果や重要性を感じ取っていただけた。



実施風景

③ 今後の取り組みと課題

実際に実施した94%の施設において、花育の継続を希望する声があがつた。しかしながら、実施後の管理や実施に向けた資金不足が挙げられるなど、継続的な実施に向けては課題も多く残されている。平成29年度においては、実施数増加による普及促進だけでなく、花育の質の向上を目的とした講師育成にも力を入れることで、実施先の満足感を高め普及および需要促進に向けた取り組みを行う。

平成 28 年度国産花きイノベーション推進事業 実施事例

介護や福祉施設における花の効用実証トライアル実施

④ 取組内容

2030年には、国内の1／3が高齢者になると予測される日本において、高齢者の生活の質の向上を図る取組が欠かせない。こうした中、脳機能の能力維持や改善にフラワーアレンジメントが効果を持つことを、介護施設関係者ならびに入所者に認知させ、普及を目的とした実証をトライアルで行った。



会場風景

⑤ 取組による成果

取組の前段において農研機構が開発した脳機能障害者等の認知能力維持改善効果のあるフラワーアレンジメントの普及に向けたセミナーを開催し施設関係者からの興味の高さを確認した。この結果を元に、都内6カ所の有料老人ホームやケアセンターにてトライアル実証を行い、被験者の88%がまた実施したいと意欲を見せた他、施設職員の62%が被験者に適したプログラムであると答えており、今後の普及に向けた足掛かりを作ることが出来た。

⑥ 今後の取り組みと課題

機能障害などを持つ入所者も多く、茎の硬さや色合い、香りなど花材の選定などにより一層の注意を要することがトライアルを通してわかった。また、高齢者への脳機能や介護予防といった切り口での普及において、取り入れやすさや継続性の面からも価格設定の見直しが必要な他、機能に合せたバリエーションの開発など、来期以降も改良のための検証を行う必要がある。



講演風景

平成 28 年度国産花きイノベーション推進事業 実施事例

・神奈川県花き・植木振興地域協議会

・協議会構成団体

(一社) 神奈川県園芸協会、神奈川県花き園芸組合連合会、神奈川県植木生産組合連合会、神奈川県花き卸売市場連合会、神奈川県花き生花小売商協同組合、日本ガーデンセンター共同機構神奈川県支部、日本ハンギングバスケット協会神奈川県支部、神奈川県（農業振興課、農業技術センター、フラワーセンターハウス大船植物園）

・主な取組

(1) フラワーコンテスト、花文化展示会、シンポジウムの開催

① 取組内容

- ・県花き展と同時開催で、県内各産地の花を使ったフラワーディスプレイを各地域の生産者が作成し、花きの県内産地を PR し、生活への取り入れ方を提案した。

(5 地区、来場者数約 1,000 人)

- ・同会場で、県産花きを用いた、ビクトリーブーケコンテストを開催した。県花き展出品と同等の花材を用い、15名の参加者がビクトリーブーケ作成の腕を競った。

ビクトリーブーケは、後日開催の神奈川県駅伝大会で優勝者により授与された。

また、県花き品評会出品者の花材を用いた押花作品の展示、県内高校生の陶芸作品を用いた生け花の展示を行い、新たな来場者を呼び込んだ。

- ・会場外では、植木、ハンギングバスケットの展示を実施し、展覧会を盛り上げた。



フラワーディスプレイ



生け花展示（花器は高校生の作品）

② 取組による成果、来場者の反応

- ・高校生や押花関係者など、新たな関係者の来場が増え、花きの県内産地の PR ができ認知度は上がった。
- ・アンケートにより花を生活に取り入れたい方が 98% と動機付けとなったことを確認した。

③ 今後の課題、取組の予定

- ・県産花きの認知度を深める催しの企画、開催時期、場所について検討。夏時期の展示を行い、来客が見込めるイベントとの PR を図る。

平成 28 年度国産花きイノベーション推進事業 実施事例

(2) 学校・福祉施設での花育体験推進

①取組内容

- ・高齢者福祉施設を対象とした園芸体験をモデル事業として県内 5 施設で実施（平成 28 年 10 月～平成 29 年 1 月、参加人数延べ 189 人）。
- ・講師は NPO 法人日本園芸療法研修会に依頼した。
- ・園芸体験は、植物の生育の過程を通して本来の効果を発揮する園芸療法の趣旨に沿ったプログラムとし、1 回目に寄せ植えの作成、2 回目に成長した花を用いた押し花の作成、3 回目に押し花を使った作品作りとした。また、花材は地域包括ケアの観点から実施福祉施設近隣の生産者から調達し、生産者も園芸体験に参加した。

②取組による成果、参加者の反応

- ・参加した介護支援者への聞き取りでは、作業中の参加者の様子が普段より積極的とする回答が 100% と高く、花の成長を楽しみにして会話が増えた、自分で水やりをするなど積極的になった、あんな笑顔は始めて見た等の声が聞かれた。
- ・本事業をきっかけに地域ボランティアの導入がなされた施設や、花苗を調達した近隣生産者と施設が協力し、園芸療法士が入らなくても園芸活動が継続されるなど、花きの利用や活動について新たな可能性を確認した。

③今後の課題、取組の予定

- ・需要側である高齢者福祉施設等に対する事業説明会を開催し、園芸療法のさらなる普及を図る。
- ・園芸活動を継続的に実施するための課題（労力と予算等）の検討。



園芸体験の様子(1回目)

近隣の生産者が栽培した花苗を使い、寄せ植え作り。
農家さんから上手に植える
アドバイス。



園芸体験の様子(2回目)

育ててきた花を摘み、押し花を作り。
グラスや針金を使ったミニアレンジメント作りも実施。



園芸体験の様子(3回目)

できあがった
押し花で作品
作り。



平成 28 年度国産花きイノベーション推進事業 実施事例

- ・山梨県花き振興協議会（山梨県）

- ・協議会構成団体

山梨県花き園芸組合連合会（生産者団体）、全国農業協同組合連合会山梨県本部、(株)山梨園芸市場、(株)甲府中央花市場、山梨県生花商業協同組合（花き小売り団体）、日本フラワーデザイナー協会山梨県支部（実需者）、(株)ハイジの村（県立フラワーセンター指定管理者）、山梨県農政部

- ・主な取組

(1) 取組名 小中学校での花育体験の実施

①取組内容

フラワーアレンジメント等の体験を通じ、花きの利用や魅力の理解浸透を図り、花きの需要拡大を目的に、小中学校での花育体験を実施。

	実施日	学校名	学年	人数
1	平成 28 年 9 月 2 日（金）	笛吹市立境川小学校	5	42
2	平成 28 年 9 月 5 日（月）	昭和町立押原小学校	3	53
3	平成 28 年 9 月 29 日（木）	笛吹市立御坂西小学校	3	69
4	平成 28 年 10 月 17 日（月）	大月市立猿橋中学校	2	98
5	平成 28 年 10 月 20 日（木）	甲斐市立玉幡小学校	1	63
6	平成 28 年 10 月 26 日（水）	甲府市立朝日小学校	1	30
7	平成 28 年 11 月 1 日（火）	中央市立三村小学校	1	57
8	平成 28 年 11 月 4 日（金）	中央市立玉穂南小学校	6	48

・花育体験実施校 8 校

・花育体験人数 460 人

②取組による成果、参加者の反応

・アンケート調査で、「体験が楽しかった」や「またやってみたい」等の意見があり、活動を通して、児童、生徒は草花に対し興味をもち、花への理解や関心が大いに高まった。花への理解・関心を示す意見が 90 % あった。



③今後の取組の予定

・各市町村の教育委員会を通じて公募を行い、継続的に実施する予定。

平成 28 年度国産花きイノベーション推進事業 実施事例

・長野県花きイノベーション推進協議会（長野県）

・協議会構成団体

長野県、全国農業協同組合連合会長野県本部、南信ハウスカーネーション組合、長野県鉢花園芸組合、日本ばら切花協会長野県支部、長野県洋らん組合、長野県生花商業協同組合、一般社団法人長野県原種センター

・主な取組

（1）生産技術向上支援

①取組内容

- ・「国際フラワーフォーラム 2016」の開催に合わせ、トルコギキョウ産地交流会（国際リシャンサスフォーラム）を松本市内で開催。

（7月8日開催、国内外の生産、流通等関係者約400名が参加）



②取組による成果

- ・トルコギキョウの生産、流通動向や需要拡大に向けた提案があったほか、消費拡大に向けたパネルディスカッションを行い、関係者の意識統一を図ることができた。開催に合わせ、県産花きを用いたアレンジメント展示や花育教室を実施し、消費者に対する消費喚起を行うことができた。

③今後の取組予定

- ・国産トルコギキョウの更なる連携に向け、関係者の定期的な交流会を開催する予定。

（2）学校・福祉施設等での花育体験推進

①取組内容

- ・県内の医療機関において、認知症患者を対象としたフラワーアレンジメントによるリハビリテーションを実施（1月～2月にかけて2回開催、入院患者等22名が参加）

②取組による成果

- ・患者に対するアンケート調査結果（気分を5段階で聞き取り、点数を指数化して比較）では、体験前に比べて10%気分が向上した。
- ・立ち会った作業療法士のアンケートからも、効果が期待できるとの回答があったが、診療報酬との関係で、実際にリハビリに取り入れるのは難しいとの意見が多く出された。

③今後の課題

- ・今後は、高齢者福祉施設入所者を対象として、フラワーアレンジメントの実技体験を実施し、福祉機関での普及拡大を検討していく予定。

平成 28 年度国産花きイノベーション推進事業 実施事例

・ふじのくに花の都しづおか推進協議会（静岡県）

・協議会構成団体

静岡県、静岡県花卉園芸組合連合会、静岡県鉢物生産振興会、静岡県花き新品種育成研究会、静岡県花き市場連合会、N P O 法人花咲くしづおかフラワーネットワーク会議、静岡県花の会連合会、静岡県華道連盟

・主な取組

（1）学校・福祉施設等での花育体験推進

①取組内容

創作活動、リハビリテーション及びメンタルヘルスを目的として、老人介護施設で園芸体験講座を計 3 回実施した。

《概要》

・東部

開催日 平成 28 年 10 月 11 日（火） 午後 2～3 時

会 場 ケアハウス和み苑（沼津市）

参加者 施設入居者 17 名

・中部

開催日 平成 28 年 11 月 1 日（火） 午後 2～3 時

会 場 久能の里（静岡市）

参加者 施設入居者 33 名

・西部

開催日 平成 28 年 11 月 15 日（火） 午後 2～3 時

会 場 ケアハウス西島（浜松市）

参加者 施設入居者 27 名

②取組による成果、参加者の反応

参加者を対象に実施した事後アンケートでは、ほぼ全ての方が「おもしろかった」と回答され、講座の補助に入っていた施設職員からは、こうした体験がリハビリや療養に効果があるという回答が多くかった。

③今後の課題、取組の予定

実施した施設において、今後も花を活用したレクリエーションを継続してもらえるよう、フラワーアレンジメントを教えられる講師など紹介していく。



アレンジメント制作の様子



使用花材は静岡県産中心

平成 28 年度国産花きイノベーション推進事業 実施事例

(2) 企業や介護施設における花と緑の活用推進

①取組内容

暮らしの様々な場面での花と緑の活用を推進するため、ふじのくに花の都しずおか・花緑コンクールを実施した。

コンクールの受賞者は、平成 29 年 1 月 25 日(水)開催の県民大会において表彰するとともに、優良事例集(5,000 部)としてとりまとめた。

《概要》

部門： I 花が自慢の職場部門

① 企業・オフィスの部

② 飲食店・宿泊施設の部 ③ 病院・福祉施設の部

II 花が自慢のまち部門

④ 学校花壇の部 ⑤ 地域花壇の部 ⑥ オープンガーデンの部

募集：平成 28 年 6 月 3 日(金)から 11 月 4 日(金)

審査：平成 28 年 11 月 21 日(月)

応募：120 点(①10 点、②6 点、③10 点、④24 点、⑤52 点、⑥18 点)

受賞：各部から最優秀賞 1 点、優秀賞 2 点、優良賞 3 点

計 36 点(静岡県知事賞)

審査員特別賞 計 10 点

作成した優良事例集



②取組による成果、参加者の反応

県民大会にコンクール受賞者をはじめとする 273 名が参加した。表彰式と併せてコンクール応募写真の掲示、花緑コンクール入賞者事例紹介(地域花壇の部最優秀賞 牧之原市花の会)、正木覚氏(エービーデザイン株式会社代表取締役)による講演

「花と緑のここちよいまちづくり」により、参加者等の今後の取組に対する意欲向上が図られた。



県民大会 講演の様子

③今後の課題、取組の予定

事業所等を対象とした「I 花が自慢の職場部門」の充実を図るため、「花のある職場」づくりに取り組む県内企業・団体等を「お花自慢の職場宣言」事業所として登録・PRすることで、花緑を活用する企業等の掘り起こしを行う。